

e 自警灯・実戦配備

世界初!!

プライバシー保護を徹底しつつ、目撃情報が無い
ことの無い地域社会の実現!

2009年12月28日

NPO法人飛組

群馬大学, NPO法人e自警ネットワーク研究会

【日時・設置場所】

日時: 2009年12月28日(月)~

場所: 群馬県前橋市日吉2丁目地内

【要旨】

プライバシー保護のための暗号化保存機能付のついた、防犯カメラシステム(e自警カメラ)を防犯灯内部に設置した「e自警灯」を、NPO飛組が、群馬県前橋市日吉2丁目を導入する。(先行導入分として4基)。プライバシー保護の徹底と、地域内での犯罪を絶対に見逃さない見守りとの両立を図る。「**全国の地域社会において、目撃情報が無いことの無い地域社会の実現**」の先駆けとなるべく、導入を決断した。今回の導入は、群馬大学、NPO法人e自警ネットワーク研究会と共同実施する社会実験も兼ねている。「**全国の全ての防犯灯をe自警灯にする!**」ことの現実性・有効性・有用性について、本社会実験を通じて検証していく。今回の導入には、群馬県の補助を受けて群馬大学、NPO法人e自警ネットワーク研究会、群馬県警察本部、前橋警察署が協力している。

【主催者】

NPO法人飛組

【協力者・共同研究者】

群馬大学 大学院 工学研究科

NPO法人e自警ネットワーク研究会

群馬県

前橋警察署

【e自警灯について】

e自警灯は、NPO法人e自警ネットワーク研究会、株式会社トステック、株式会社ロッキー、群馬大学が2009年10月に、共同開発した「プライバシー保護機能付き防犯カメラ内蔵LED防犯灯」である。

e自警灯は、直近1週間分の画像を内蔵したメモリカードに画像を暗号化して保存する。暗号の解除には、解除パスワードと、専用ソフトウェアをインストールしたPCが必要となる。e自警灯の所有・管理者はNPO飛組、解除パスワードと専用ソフトウェアは警察署が所有することにより、地域内の安全・安心を脅かす事件・事故が発生したときのみ、NPO飛組から前橋警察署に画像が提供され、警察署において暗号解除され、捜査に役立てることが可能となる。**e自警灯**の開発により、平常時のプライバシーを完全に保護しつつ、有事の際には、地域内中の画像が確実に警察に渡る、低コスト防犯カメラシステムの実現が可能となる。主な特徴は以下である。

- ・ 防犯灯内に防犯カメラを内蔵。
- ・ PC不要のAll-in-Oneタイプ。
- ・ 画像の暗号化保存で、「プライバシー侵害の可能性」を極小化。
- ・ 防犯灯の電源を使用することで、防犯カメラシステム用に電源をとる必要がない。
- ・ 常に直近約1週間分の画像を、暗号化した上でメモリカードに保存。
- ・ 暗号化解除できる「**暗号解除ソフトウェア**」をインストールしたPCを別途用意。
- ・ LED灯使用の為、長寿命。従来の蛍光灯と比べ5倍以上、約11年使用可能。

e 自警灯に関する詳細は、下記。(2009.10.28 e 自警灯に関するプレス発表資料)
http://www.el.gunma-u.ac.jp/~fujii/Materials/PReJikeiLight_J.doc

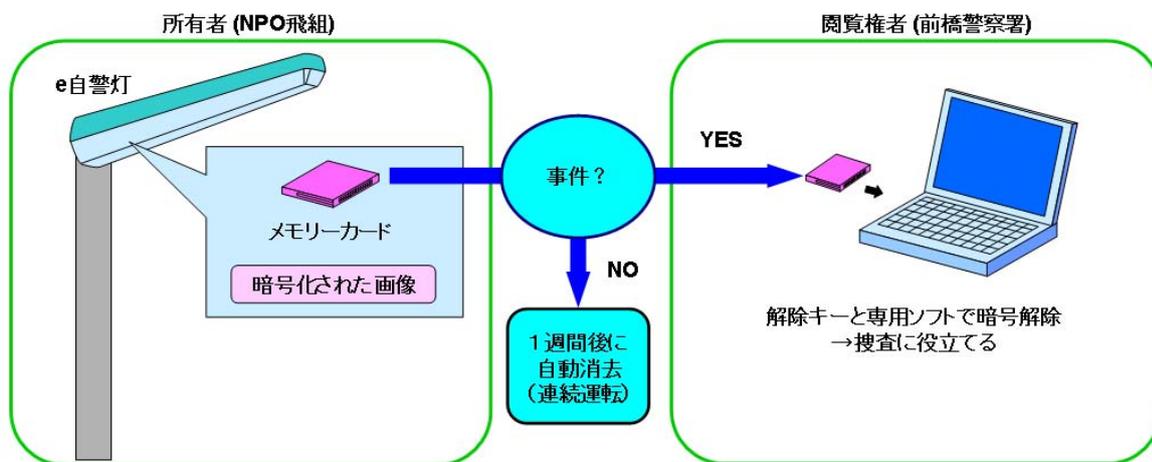


図1. e 自警カメラのプライバシー保護コンセプト



図2 e 自警灯の外観



図3 新開発の防犯カメラシステムユニット
(手前が本体内部に装着するメモリーカード)

【想定される、今後の利用形態】

「e 自警灯」と「暗号解除ソフトウェア」を組み合わせる。

- ・ たとえば、「e 自警灯」1000台と「暗号解除ソフトウェア」を組み込んだPC1台で運用する。
- ・ 「e 自警灯」は、個々の「所有者（町内会、PTAなど）」が設置する。
- ・ 「暗号解除ソフトウェア」は、暗号解除パスワードを保有する「閲覧権者（警察署、学校職員室、町会長宅など）」が管理する特定の場所に設置されたPCにインストールする。
- ・ 地域の安全・安心を脅かす出来事（事件・事故・不審者など）があった場合、「所有者」の自由意志に基づき、カメラ内蔵のメモリーカードが「閲覧権者」に渡され、犯罪捜査等に役立てられる。
- ・ 地域の安全・安心を脅かす出来事がない限り、「所有者」は「閲覧権者」に暗号化された画像の入ったメモリーカードを提供しないようにする。（町内会等での申し合わせ、導入に当たってのルールとして、決めておく。）

【実用化の見通し】

- ・ 既に、製品化の目処は立っている。
- ・ 防犯灯の電源を使用することで、防犯カメラシステム用に電源をとる必要がない。
- ・ 一般通行人に対するプライバシー侵害の危険性が極めて低く、悪用される恐れも小さいので、行政による補助金支給対象になることが期待できる。

- ・ 地域，町内，学区など，団体での一括導入に適しており，町内会やPTAによる組織的導入が行われることが期待できる。



図4 左右のカメラの保存画像（昼間，暗号解除後）

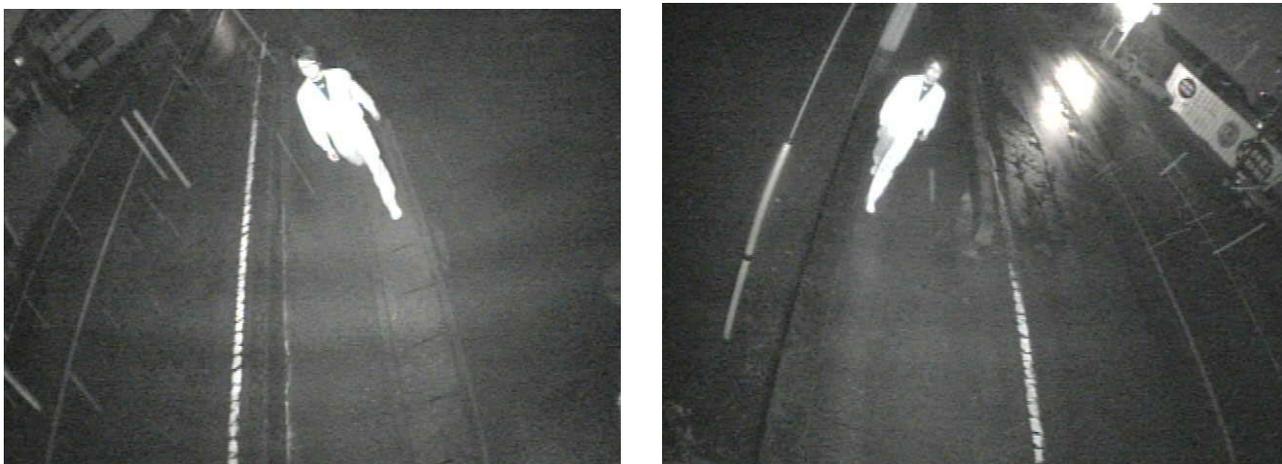


図5 左右のカメラの保存画像（夜間，暗号解除後）

【e自警ネットワーク研究会が目指すもの】

「e自警灯」は，これまでの問題点の多くを解消したe自警カメラ（PC不要，屋外設置可能，AC電源投入で即動作開始，直近1週間分の画像を暗号化保存，と，数々の新機軸を取り入れている）を内蔵しており，導入・運用に特別な知識は不要である。覗きなどに悪用される恐れも極めて低い。今回の「e自警灯」の登場により，地域社会への防犯カメラの普及が爆発的に進展し，「地域社会で発生する誘拐事件，凶悪事件などにおいて，目撃情報がないことがあり得ない社会」が実現することを期待している。

目標

全国の全ての防犯灯を，e自警灯に！

目撃情報の無いこと無い地域社会の実現！

【プレス発表資料】

日本語版：

http://www.el.gunma-u.ac.jp/~fujii/Materials/PReJikeiLightSE_J.pdf

【連絡先】

NPO法人飛組 熊倉繁 （こぐま館） 027-232-6111
群馬大学 大学院 工学研究科 藤井教授 0277-30-1756